

パソコンを隠せ、アナログ発想でいこう！

D. A. Norman 著、岡本 明、安村通晃、伊賀聡一郎訳、新曜社

ISBN4-7885-0730-7 (定価 3,300 円 + 税) 2000 年 7 月 15 日 発行



【目次】

日本の読者へ

まえがき

第1章 今やっていることをみんな止めてくれないか

第2章 成熟 テクノロジー中心の製品から人間中心の製品へ

第3章 情報アプライアンスに向けて

第4章 パソコンのどこが悪いのか

第5章 魔法の妙薬はない

第6章 インフラストラクチャの力

第7章 アナログでいこう

第8章 なぜ、すべてのものがこうも使いにくいのか

第9章 人間中心の開発

第10章 人間中心の開発をしたいなら組織を変えなさい

第11章 革新テクノロジー

第12章 情報アプライアンスの世界

付 録 情報アプライアンスの例

今日の消費者は、もはや複雑な機械は受けつけない。生活をさらにややこしくするものではなく、簡素にしてくれるものを彼らは求めている。21世紀は消費者中心、人間中心の設計の時代となる。人間中心設計者は、人間のための製品を人間中心のやり方で生みだすため、技術者と一緒に仕事をする。これを実現するものが勝ち、複雑すぎる製品を作り続けるものは敗れ去る。これこそ著者がまさに伝えたいメッセージである。

本書は、良い製品であっても必ずしも売れないものが多いのはなぜかという、ノーマンが大学を離れて企業に入り、実際に体験したビジネス社会の実態を書いている。また、今日のパソコンの使いにくさは本質的なものであって、その解決にはコンピュータを見えなくし、タスクに特化した「情報アプライアンス」の開発が必要であると主張する。そして、本当に使いやすいものを作るには会社トップの考え方や組織を変える必要があると述べている。すなわち、「コンピュータが陰に隠れて本当に使いやすいものとなるには、企業そのものが変わらなければならない」というのが、本書のメッセージである。

デジタル全盛の昨今、「人間はアナログであってデジタルではない」、「生き物であって機械ではない」、「今こそ、人間中心のテクノロジー、人間らしいテクノロジーを作る時だ」と考える読者にお薦めの一冊である。